

資料4 誤答の原因（一部）

傾向	誤答例	原因
て字同字の訓当異	会う→合う 開ける→明ける 早い→速い	ことばの多義性を無視したために適切な使い分けができない。意味も似ているために誤ってしまう。
の当て字の同音異字	遠足→園足 黄土色→王土色 温度→音度 地下→地科	ことばそのものの意味については知っているのだが、漢字のもつ意味を無視したために、同じ音の漢字を当てはめてしまう。
誤用発音的	一つ→人つ 火→日 決める→気める	漢字のもつ意味や音訓を無視。音だけで他の漢字を当てはめてしまう。
る似音の誤用よ類	外国→会国 持つ→物つ 一学期→一学級	ことばの音の一部が同じであるために漢字の意味を考えずに他の漢字を当てはめてしまう。
な不字記確形憶実の	暗い→暗い 泳ぐ→冰ぐ 運動会→運動会	形は似ているが、字形を正確に記憶していないために、誤ってしまう。
用似字の形誤類	右の手→石の手 貝がら→具がら 顔→頭	字形を正確に記憶していないために、似ている漢字を当てはめてしまう。
の偏点脱落冠	顔→頬 苦しい→古しい 橋→喬	字形を正確に記憶していないために、点画や部首の一部を落として書いてしまう。
の偏点過剩冠	暗い→暗い 黄土色→横土色 計画→計画	同じ方向の点画が一画多くなってしまったり、部首をつけ加えてしまったりする。
の逆転	駅→咫 晴→青 明→甲	偏、旁が左右にはっきりと分かれて独立しているように見える場合に誤る。

対する意識を高める必要がある。
工 同音異字の当て字に対しても、文脈上から区別して使うことができるようになる。そのためにも短文作りを行っていく必要がある。

汉字には意味のあることを強く意識させるため、その漢字を含むいろいろな語を集める学習を大事にする必要がある。

力 漢字を正しく読めるようにする必要がある。音読み、訓読みともにおさえさせたい。

キ 新しい漢字を次々に累加的に習得させるだけでなく、漢字の「読み」

「字形」「意味」の観点から復習し、まとめ、記憶をより確実なものにしていく必要がある。

(1) 具体的指導法

(1) 「漢字辞典作り」

児童が自主的に学習に取り組めるプリントを与え、自分で「漢字辞典」を作り上げていく喜びを味わいながら、自己学習力を高めていくことをねらつて取り組ませる。

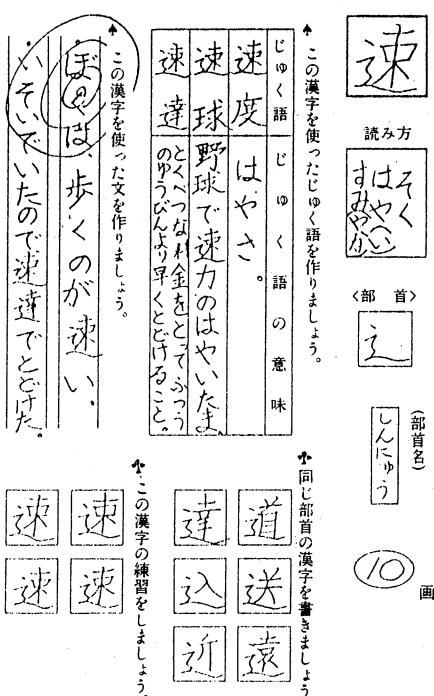
① 学習方法

事前テストで誤った漢字、新出漢字について、朝自習の時間に国語辞典、漢和辞典を使うなどしてプリント



漢字辞典づくり

資料5 「漢字辞典作り」のプリント記入例



トの各項目ごとに記入する。（資料5 参照）

教師は、提出されたプリントを点検し、児童に返す。これを児童はファイルに綴つていく。

② 学習内容

児童の漢字を書く実態からさまざまなる学習内容が考えられるが、次に項目で調べさせる。ここで取り上げられないものは、授業で補う。

音・訓読み

部首・部首名

熟語作りとその意味

○ ○ ○ ○ ○ ○ 画数
練習 同じ部首を使った漢字集め